

六・二六水害

豊栄市長
石井耕一

暗緑の平野を覆い、雨は降り続く。嚴重な警戒巡視の中、福島潟、阿賀野、新発田、太田、万十郎、駒林など各河川は刻々に増水。まず干拓地に水は溢る。

もりあがる濁水は既に堤防高まなじりを決して水防活動開始。消防団、農家は総動員。対策本部の指令はとび商店街、住宅団地、市役所も前線へ。全面堤防を越える水に負けじと土のうを積み、太田川、万十郎川、大通川、対岸は見渡す限り水没。

豊栄開発の歴史は水との闘い。水を防げ、郷土を守れと。祖先から流れている血がいまわきあがる。延々二十五キロ。二万一千人が出動して築いた土のうは十九万夜を徹しての三日間達に通いだ守りきった。雨のやんだ空を仰いで。みんなの胸に満足感とほそかな誇り。

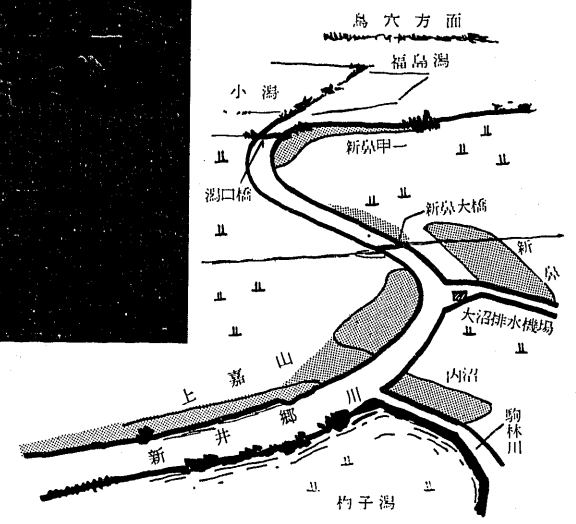
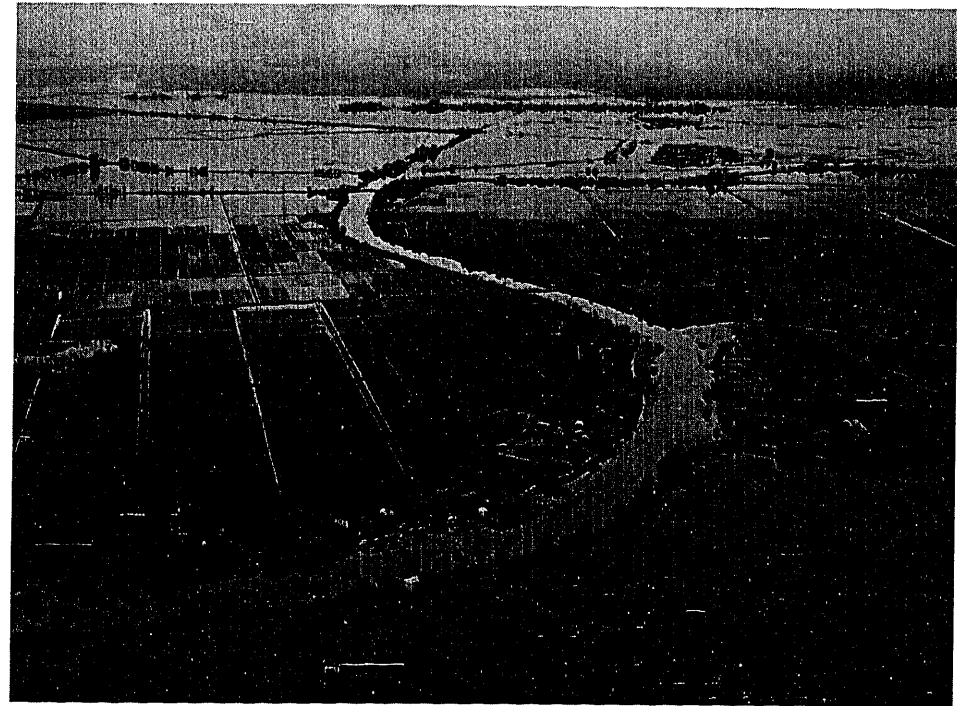
しかし、冠水農地二千ヘクタール。浸水は床上百十三床下五百九十四回目的被害もまた甚大。思い浮ぶは福島潟、新発田川放水路と胡桃山排水機ができていたらということ。災害は忘れないうちにやってくる。四方市民いよいよ回結して郷土を守ろう。さらに、抜本的な治水事業を国や県に訴えよう。

六・二六龍雨前線豪雨の水害特集号を編集し、市民の皆さんに水害の一端をお知らせします。
七・一七、八・二八と、忘れもしない二年続きの水害。
その八・二八水害から十一年めにして、またも思わぬ水害に襲われました。しかし、今回は農家の人々、消防団員、一般市民の長時間にわたる過酷な水防活動により破堤という最悪の事態は免れることができました。
市は、恒久治水対策として胡桃山排水機の建設と、福島潟、新発田川両放水路の早期完成に努力してきましたがさらに議会および関係市町村・関係団体と連絡を密にして、早期完成に努力します。



新鼻甲一 (6月29日)

空から見た水害



六月二十五日から続いた雨は、止むことをしらず、またも被害をもたらしました。写真は福島潟、新井郷川、駒林川などが増水していることを鮮明に物語っており、その周辺では広範な地域にわたり農地が冠水していることがわかります。特に福島潟から新発田市鳥穴方面にかけてと、手前の杓子潟周辺のすこさが目立ちます。(六月二十八日午後撮影)